

平成 25 年 3 月 11 日

厚生労働委員 殿

ワクチンで防げる病気 (VPD) から日本の子どもたちを守るための要望書

NPO 法人 VPD を知って、子どもを守ろうの会

理事長 菌部 友良

+ Action for Children 代表 高畑 紀一

細菌性髄膜炎から子どもたちを守る会・支援ネットちば

代表 黒崎 知道

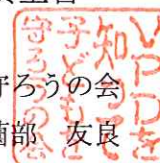
ムコネット Twinkle Days 代表 中井 麻里

先天性代謝異常症の子どもを守る会 代表 柏木 明子

胆道閉鎖症・乳幼児肝疾患 母の会「肝ったママ's」

代表 加藤 貴子

CAPS 患者・家族の会 代表 利根川 聡



子どもは日本の宝であり、日本の未来です。日本の未来を担う子どもたちを感染症から守るのにワクチンが効果的であることは言うまでもありません。しかし、先進国とは異なり、この日本において定期接種化されていない乳幼児・小児ワクチンが存在し、必ずしも十分なワクチン接種率に達していないことから、まだ多くの子どもたちがワクチンで防げる病気 (VPD: Vaccine Preventable Disease) で生命や健康を脅かされているのが現状です。子どもたちが VPD に苦しみ、亡くなったり、重い後遺症を持つ場合もあること、VPD に苦しむ子どもの看病をする保護者の負担が軽視できないものであることは、日本における大きな課題であります。

このたびヒブ、小児用肺炎球菌、子宮頸がん(HPV)の3ワクチンを、定期接種(一類疾病)に加える予防接種法改正法案が国会に提出されたことは、私ども国民として非常に喜ばしいことと受け止めております。政府、議員その他の関係者の皆様のご尽力に心より敬意を表するものでございます。

しかしながら、本来ならば同時に定期接種(一類疾病)とすべきである、下記の乳幼児・小児ワクチンが未だ積み残されています。

つきましては、今回の3つのワクチン同様、日本国内で子どもに接種できる全てのワクチンを早急に定期予防接種(一類疾病)に定めていただくよう、下記の通り強く要望いたします。

必要な全てのワクチンを定期接種化し、接種率を向上することによって子育てを支援することは、子どもを産み育てやすい国を築くことに必ず繋がります。疾病に伴う直接医療

費・間接医療費の軽減により、出産・子育て世代の家庭への経済的支援ともなります。

また、保護者の労働環境が整備され安心した就労を実現することで、少子化対策に寄与します。これらは日本国全体の経済成長に繋がると確信しております。

記

現在任意接種で自己負担となる、おたふくかぜ、水痘、B型肝炎、ロタウイルスの各ワクチンを、早急に定期の予防接種（一類疾病）に定めていただくこと。

以上